岡山理科大学教育実践研究 第7号 pp.31-43（2023）

オンライン英会話の有効性に関する考察

－DMM 英会話を例にとって－

藤城　孝輔・竹野　純一郎・西野　友一朗*・奥西　有理
岡山理科大学教育学部中等教育学科

要旨
本稿では、オンライン英会話について様々な視点から焦点を当てた。はじめに、オンライン英会話、中でも DMM 英会話を例にとるに至った経緯を述べた。オンライン英会話の実際について確認した後、DMM 英会話レッスン受講から見える世界諸英語の実情について、オンライン英会話の検定対策における活用可能性、留学の代替手段としてのオンライン英会話、ICT を用いた異文化理解などの側面からオンライン英会話の有効性に関して考察した。日本のような環境下では、オンライン英会話は、有効な英会話の手段であると結論付けた。

１．はじめに

岡山理科大学教育学部では、2022 年度後半から希望者を対象に DMM 英会話を導入している。経緯として、岡山理科大学附属中学校・高等学校が希望者に DMM 英会話を導入していたこと、岡山理科大学教育学部で普段から英語のスピーキング力をつける有効な方法について要望があったこと、コロナ禍にあって留学や異文化交流が困難であったこと、そして、小学校で外国語（英語）が教科化されたこと、などが理由に挙げられる。また、背景として、日常生活で英語を話す機会のない EFL（English as a Foreign Language）環境下にある日本において、2020 年度当時コロナ禍で人と人の接触を避けるオンラインの用途が拡大する中で、オンライン英会話は直接の対面を避けながら英会話実践を確保する一つの方向性であると考えられたことも大きな要因であった。2024 年 1 月までに無料トライアルを含め学生が 19 名、教員が 6 名が受講しており、2024 年 1 月 11 日現在は学生 1 名、教員 3 名が受講を継続中である。留学を希望する学生が日常的に英語を使用する機会を増やすため、語学検定試験のスピーキング・テスト対策のためなど目的意識をもった学生が受講を続ける傾向が見られるが、受講する学生数の維持は目下の課題である。

安河内（2021）は、「オンライン英会話とは、パソコン、タブレット、スマホの画面越しに 1 対 1 で世界の人々と英語を話す練習をすることができる仕組みの総称」と説明している [1)]。オンライン英会話サービスを提供する会社は、どこもより良いサービスを提供するため特色を打ち出している。DMM 英会話は、オンライン英会話サービスを提供している数ある会社の一つである。

本稿では、オンライン英会話の有効性について考察する。DMM 英会話を例にとるのは先に述べたような経緯があったためであり、DMM 英会話が他のオンライン英会話サービス会社よりも優れているということを論じる意図ではない。ただし、本稿を執筆する理由の一つになった、他社にはあまり見られない DMM 英会話の特徴である、講師陣の多様性についてはその優位性を認めざるを得ない。ネイティブスピーカーを含めた世界 120 ヵ国以上の講師のレッスンを受講でき、アジアやヨーロッパ、北米に中南米、オセアニア、中東、アフリカなど、様々な出身国の講師と英会話をすることで、まさに「世界の人々と英語を話す」ことが可能になる。いくらオンラインでのコミュニケーションが可能になった現在とはいえ、DMM 英会話サービスが提供しているプラットフォームがなければ、120

ヵ国以上もの人々と話すことは現実的に難しい。

本稿では、オンライン英会話の有効性について、オンライン英会話の実際について確認した後に、DMM 英会話のレッスン受講から見える世界諸英語（３－１参照）の実情について、オンライン英会話の検定対策における活用可能性、留学の代替手段としてのオンライン英会話、ICT を用いた異文化理解などの観点から考察していく。

２．オンライン英会話の実際

２－１　オンライン英会話のメリット

オンライン英会話を経験したことのない英語学習者にオンライン英会話を説明するとき、そのメリットを伝える必要があると考える。奥田（2020）は、オンライン英会話のメリット 10 個を厳選している（表１）。

表１　オンライン英会話のメリット

メリット 1	初心者にもやさしく音読まで一緒にやってくれる
メリット 2	直前の予約ができるし、キャンセルもできる
メリット 3	早朝から深夜まですきまの 25 分にレッスンを入れられる
メリット 4	オリジナルテキストは質と種類が充実している
メリット 5	先生を年代、性別、専門などで選べる
メリット 6	体調が悪いときは少し寝転がった姿勢でも受けられる
メリット 7	レッスンが終わり画面を閉じれば人間関係が終わる
メリット 8	月額制でいつでも休会できるから大損なし
メリット 9	リーズナブルな価格のプライベートレッスン
メリット 10	先生は厳しく叱ることなくほめてくれる

注：奥田（2020）に基づく [2)]

また、安河内（2021）は、オンライン英会話について、「日本人に圧倒的に足りていないアウトプットする機会を増やすという意味で、オンライン英会話は英語学習の救世主である」という個人的な見解を述べ、実際に同じ空間を共有するリアルの英会話と異なる強みを、「コミュニケーションを楽しめる」、「低価格を実現している」、「多種多様な先生を選んで独占できる」、「無料教材が充実している」、「いつでもどこでもできる」、の五つにまとめて一つ一つ解説している。

1 対 1 のリアルの英会話レッスンを想像したとき、時間や場所の制約、講師との相性、教材の難易度や指導方法、学習効果やコストパフォーマンスなど、様々な課題が思い浮かぶ。オンライン英会話であれば、対面の臨場感をともなったコミュニケーション感覚が幾分乏しいという点を除けば高い学習効果が得られ、特に問題点は見当たらないように思われる。

２－２　オンライン英会話の効果について

オンライン英会話の効果は、前項のメリットや強みで確認できたように、講師や教材も受講者が選べるなど個人的な選択肢が多様であるため、客観的に測定することは難しいと考えられる。

江口（2019）は、オンライン英会話の経験がスピーキング能力の伸長に影響を与えるかについて、受講回数とピアソン社が提供する VERSANT English Speaking Test との相関で検証した [3)]。その結果、スピーキング・テストのスコアはプレテストよりもポストテストの方が有意に高得点であったものの、オンライン英会話以外の教育が影響を与えていた可能性は否定できず、受講回数が十分でなかった可能性もあり（最も多く受講した参加者であっても 20 回）、受講回数とスピーキング・テストのスコアの間には有意な相関は見られなかった。

永田（2022）は、オンライン英会話学習が TOEIC の Listening と Reading のスコアに与えるに影響について分析した [4]。分析対象としたオンライン英会話は、マンツーマンの英会話学習をニュース教材などの一定の電子教材を用いて行うことに加え、語彙力トレーニング・ソフトを使った一定時間の学習を組み合わせたものであった。分析の結果、オンライン英会話は、TOEIC スコアを上昇させる統計的に有意な効果があることが実証された。

オンライン英会話には効果があるかどうかに対する回答の難しさとして、受講者側の選択肢の多様性という変数に加えて、英語力のどの部分に効果があったのかについて考えなければならない問題がある。リスニングに対して効果があったのか、スピーキングに効果があったのか、リーディングやライティングに効果があったのか、また、測定結果に効果が確認できても、それはオンライン英会話によるものなのか、他の要因が関与しているのかについて検討しなければならない。

オンライン英会話学習を効果的にするには、永田（2022）が述べているように、「オンライン英会話では個人による学習時間の幅が大きくオンライン英会話と通常の英語教育を組み合わせることで、両者にとって望ましい教育効果を上げることができる」という見解が妥当であろう。嬉野（2016）は、オンライン英会話はレッスン外の学習も必要であり、予習や復習をすると学習効果が上がることを実体験から記している [5]。

３．オンライン英会話の有効性についての考察

３－１　DMM 英会話のレッスン受講から見える世界諸英語の実情について

イギリスの旧植民地を中心に世界へ広がっていった「英語（English）」は、それぞれの場所で話される言語や文化などの影響を受け「多様な英語（varieties of English）」となった。発音・文法・語彙などに特徴を有し、現地で用いられる系統だった英語は「世界諸英語（World Englishes）」と呼ばれている。そして、その多様性を認め、世界諸英語を優劣なく認めていく考え方が「国際英語論」である。塩澤ほか（2016）[6]や柴田・仲・藤原（2020）[7]は、英語の多様性を重視する国際英語論の観点を取り入れた英語教育実践の重要性を指摘している。田中・田中（2012）[8]や本名・竹下（2018）[9]から、世界諸英語の歴史的背景や英語使用の現状、発音、文法、語彙などの特徴を学ぶことができる。

本項では、国際英語論の立場から論じるのではなく、DMM 英会話の「世界 128 ヵ国 10,000 人以上の講師」（https://eikaiwa.dmm.com/）の英語から、世界諸英語の特徴が見られるのかどうかについて、実際の受講をとおした観察を行い、考察を加える。

世界諸英語の実例として、榎木薗（2016）は、独特の響きを持ち聞き取りづらいと考えられているインドの英語の聞き取りのコツを紹介している [10]。柴田（2016）は、多かれ少なかれ母語の影響を受けたアジア諸国のノンネイティブスピーカーの英語を聞き取るには、英語力の底上げと同時に、各国の発音の特徴をつかみ、実際の音声に慣れる重要性を説いている [11]。120 を超える出身国からなる DMM 講師陣の英語は、母語の影響をどの程度受けたのか、聞き取るためには発音の特徴や実際の音声に慣れる必要がある世界諸英語の特徴が強いのか、あるいは、母語の影響や特徴がそれほど強くない聞き取りやすい標準的な英語なのであろうか。この問いに対する答えを得るために、DMM 英会話のレッスンを受講する際に、第 1 筆者を中心に、様々な出身国の講師を意図的に選択することで観察を行った。

表２は、DMM 英会話のウェブサイト「予約・講師検索」で確認できる講師の出身国および人数の内訳である。確認調査は、2023 年 10 月 10 日に行った。DMM 英会話では、講師は 10,000 人以上が在籍しているのだろうが、確認調査を行ったタイミングで確認できたのは 116 ヵ国 6,648 人の講師であった。この確認調査を行うと決めた 2023 年 9 月 25 日時点では 120 ヵ国を確認できたが、その時点から考えると、ヨーロッパからフィンランドやブルガリア、中東のアフガニスタン、アフリカのエチオピアなどがリストから外れていた。「予約・講師検索」サイトで確認できる講師の総人数は、毎日微増減しているようである。

New Tutor として新しく加わる講師がいれば、一定の期間レッスンを行わずリストから外れる講師がおり、「予約・講師検索」サイトで確認できる国や講師の数は固定的なものではなく変動する。

講師を選ぶ際には、118 ヵ国の講師と話せる「スタンダードプラン」と、ネイティブ・日本人講師を含む 128 ヵ国すべての講師と話せる「プラスネイティブプラン」があり価格設定が異なっている。「プラスネイティブプラン」に加入すると、アイルランド、イギリス、アメリカ合衆国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、南アフリカに加えて、台湾、大韓民国、日本のプラス 10 ヵ国の講師陣から選択が可能になる。「プラスネイティブプラン」に台湾、大韓民国、日本が加わっているのは、「スタンダードプラン」は学べる言語が英語のみであるのに対して、「プラスネイティブプラン」であれば、学べる言語が英語、韓国語、中国語（繁体字）、日本語であるからであろう。もちろん、台湾、大韓民国、日本の講師は本来英会話の講師として採用されており、全員が英語のレッスンを提供することが可能である。

表２　DMM 英会話「予約・講師検索」で確認できる講師の出身国および人数内訳
（計 6,648 人）（計 116 ヵ国）2023 年 10 月 10 日調べ

アジア(4,011 人)（18 ヵ国） インド(35) インドネシア(44) カザフスタン(5) キルギス(1) スリランカ(24) タイ(2) タジキスタン(1) ネパール(21) バングラデシュ(20) パキスタン(29) フィリピン(3,233) ベトナム(1) マレーシア(20) ミャンマー(1) 中華人民共和国(1) 台湾(37)* 大韓民国(28)* 日本(508)*
ヨーロッパ(1,234 人)（32 ヵ国） アイルランド(45)* アゼルバイジャン(5) アルバニア(18) イギリス(488)* イスラエル(1) イタリア(1) ウクライナ(2) エストニア(1) オランダ(1) オーストリア(1) ギリシャ(2) クロアチア(4) コソボ(12) ジョージア(5) スイス(1) スペイン(2) スロバキア(1) セルビア(452) トルコ(6) ドイツ(2) ハンガリー(4) フランス(1) ボスニア・ヘルツェゴビナ(102) ポルトガル(9) ポーランド(4) モルドバ共和国(4) モンテネグロ(20) ラトビア(2) リトアニア(2) ルーマニア(11) ロシア連邦(4) 北マケドニア共和国(21)
北米(593 人)（2 ヵ国） アメリカ合衆国(503)* カナダ(90)*
中南米(205 人)（25 ヵ国） アルゼンチン(13) ウルグアイ(1) エクアドル(2) エルサルバドル(1) ガイアナ(8) グアテマラ(2) コロンビア(15) ジャマイカ(51) スリナム(5) セントルシア(2) チリ(3) トリニダード・トバゴ(13) ドミニカ共和国(5) ドミニャ国(1) ニカラグア(3) ハイチ(2) バルバドス(4) パナマ(4) ブラジル(13) ベネズエラ・ボリバル共和国(12) ベリーズ(11) ペルー(7) ホンジュラス(2) ボリビア多民族国(3) メキシコ(22)
オセアニア(69 人)（3 ヵ国） オーストラリア(49)* ニュージーランド(19)* パプアニューギニア(1)
中東(21 人)（8 ヵ国） アルメニア(6) イエメン(2) イラン(2) ウズベキスタン(6) サウジアラビア(1) バーレーン(1) パレスチナ(1) ヨルダン(2)
アフリカ(515 人)（28 ヵ国） アルジェリア(7) アンゴラ(7) ウガンダ(12) エジプト(33) エスワティニ王国(5) カメルーン(31) ガーナ(29) ギニア(2) ケニア(13) コンゴ民主共和国(2) ザンビア(28) ジンバブエ(79) スーダン(1) タンザニア(7) チュニジア(11) トーゴ(1) ナイジェリア(75) ナミビア(4) ベナン(3) ボツワナ(5) マダガスカル(2) マラウイ(6) モザンビーク(1) モロッコ(44) モーリシャス(5) ルワンダ(3) レソト(15) 南アフリカ(84)*

注：DMM 英会話「予約・講師検索」（https://eikaiwa.dmm.com/list/）を基に筆者ら作成
地域名・区分および国名は原典表記のまま
「*」付き国名の講師はプラスネイティブプラン加入者のみ予約可能

表２から、講師の数が多い順に上位 10 ヵ国を挙げてみる。括弧内の数字は 2023 年 10 月 10 日に「予約・講師検索」で確認できた講師数であり、アスタリスクは「プラスネイティブプラン」を意味する。1 位フィリピン(3,233)、2 位日本(508)* 、3 位アメリカ(503)*、4 位イギリス(488)*、5 位セルビア(452)、6 位ボスニア・ヘルツェゴビナ(102) 、7 位カナダ(90)*、8 位南アフリカ(84)*、9 位ジンバブエ(79)、10 位ナイジェリア(75)という順位と

なった。この結果は、それぞれの国での英語話者数を反映しているというよりも、DMM 英会話の採用活動の努力の結果と関わっているようである。

表 2 で講師数が 1 名という国も散見される。これは考え方次第であるが、筆者らは 1 名しかいないという見方ではなく、人生において話すことができなかったかもしれない国の出身者と出会える可能性と捉えている。実際、DMM 英会話では教材を用いることが可能であるがフリートークを選択することもでき、その際に、講師の国について質問をするという楽しみ方もある。DMM 英会話で世界中を旅する疑似体験ができるのである。

第 1 筆者は、DMM のレッスン受講を 2023 年 10 月 15 日現在で 129 ヵ国の出身講師と行っている。国の数が現在確認できる国のリスト数を超えているのは、講師数やその出身国数は増減するからである。受講者は、ウェブサイトの「メダルコレクション」から受講した国とレッスンの回数を確認することが可能である。筆者らの DMM 英会話のレッスン受講から見える講師の英語の多様性について述べたい。レッスンの録音を分析して客観的な尺度をもって評価をしたわけではないが、英語が現地の言語の影響を受けている特徴を有しているかどうかという視点に立って講師の英語を評価すると、中には幾分くせや訛りのある英語を話す講師もいたとしても、それは例外的であり、概して標準的で聞き取りやすい英語を話しているといえる。田中・田中（2012）や本名・竹下（2018）で紹介されているような特徴的な諸英語に触れるというよりは、標準的な英語でレッスンは行われているのである。DMM 英会話のレッスン受講を始める前は、出身国によって英語に特徴があり会話が円滑に進まないことがあるかもしれないと想定していたが、そのような心配は必要ないことがわかった。

このことは、DMM 英会話ウェブサイトの「講師について」にあるように、「ティーチングのプロフェッショナルによる厳しいトレーニングや日本人スタッフがきめ細やかにチェックする 80 項目に及ぶ最終評価をクリア」という条件が課される、優秀な講師を求めた世界各国での精力的な採用活動によるところが大きいであろう。その合格率はわずか 5% だという。採用には 5 段階採用プロセスが用意され、1. 書類審査（約 128 ヵ国を超える国からの採用を受け付け、学歴・職歴のほか、英会話学校などの講師経験を中心に判断）、2. 面接（「楽しいレッスンを提供できるか」が最大の基準）、3. トレーニング（ティーチングスキルのトレーニングのほか、PC 操作のオペレーショントレーニング）、4. デモレッスン（日本人スタッフからのフィードバックの繰り返し）、5. 評価・最終試験（日本人スタッフによる 80 項目の最終審査）を経なければならない。さらに、採用後のフォローアップシステムがあり、抜き打ち試験やネイティブスピーカーや英語教育のプロフェッショナルによる発音を含めた指導があり、受講者コメントによる講師評価システムまで採用され、講師は常に評価される立場にある。受講者は、講師を選ぶ際は事前に動画で講師を確認できる。このような運用がされていることを考えれば、DMM 英会話の講師陣が 120 ヵ国以上の国々の出身者であったとしても、世界諸英語の特徴を有する英語ではなく、くせや訛りのない標準的な英語を話すのは当然のことであるといえるだろう。

本項の最後に、英語の二重性の視点を確認したい。小張（2021）は、フィリピン人英語話者の「英語の二重性」に着目し、国際英語論における多様な英語の国別変種としての「フィリピン英語」（PE）と商品化／コモディティ化傾向のある「フィリピンの英語」（Commodified Philippine English = CPE）とに分けて論じている[12)]。1960 年から 2000 年の CPE 導入前の接触領域は国際交流であり、2000 年以降の CPE 導入期の接触領域はスカイプ英会話や英語留学などの私教育、そして、2010 年以降の CPE 拡大期の接触領域はオンライン英会話や英語講師（ALT など）の公教育になってきているという考察は非常に興味深い。「フィリピンの英語」が商品としての価値があると述べられているが、DMM 英会話の英語を母語としないフィリピン以外の国々の講師にも、友人と話すときの英語とレッスンで話す英語は変えているということを述べる講師がいるので、標準的な英語の意味するところが商品としての英語になり得るということである。

３－２　オンライン英会話の検定対策における活用可能性

DMM 英会話は TOEFL をはじめとする検定対策試験対策としての活用も視野に入れて作られている。2023 年 10 月現在、レッスン教材として「IELTS スピーキング対策（IELTS Speaking Test Preparation）」「TOEIC®スピーキングリアル模試（TOEIC® Speaking Actual Test）」「TOEFL iBT®スピーキング（TOEFL iBT® Speaking）」「英検®対策」が提供されている。このうち IELTS 対策の教材のみが DMM 英会話によるオリジナル教材であり、残りはそれぞれ韓国の Darakwon 社が発行する《토익스피킹 10회 모의고사만으로 IH 넘기》［直訳：TOEIC スピーキング 10 回の模擬試験だけで IH 突破］（2022）[13]および *Decoding the TOEFL® iBT Actual Test: Speaking*（2 分冊、2020）[14]、そして英検を主宰する日本英語検定協会を外郭団体として有する旺文社が発行する『7 日間完成 英検予想問題ドリル』（2019）[15-20]および『14 日でできる！ 英検二次試験・面接完全予想問題』（2021）[21-24]のシリーズにもとづいている。

これらの教材の大半は、CEFR（Common European Framework of Reference for Languages、ヨーロッパ言語共通参照枠）における中上級レベルの B1 から上級レベルの C1 の下位を学習目標の上限に位置づけている。英検については予想問題ドリルの 5 級～準 1 級、二次試験予想問題の 3 級から準 1 級を提供しており、CEFR における初心者レベルの A1 から英検準 1 級の合格ラインにあたる B2 の最上位までが学習目標とされている。TOEIC のスピーキング教材では IH（Intermediate High、米国外国語教育学会が定める言語能力の基準における中上級レベル）を目標に掲げていることからも、CEFR B1 上位に相当する 200 点満点中 140～150 点を学習目標とした教材であることがわかる（Schmidgall, 2018）[25]。TOEFL と IELTS のスピーキング教材については DMM 英会話独自のレベル分けで TOEFL がレベル 7、IELTS がレベル 4～8 と定められている。DMM 英会話によるレベル分けは全 10 レベルあり、1～3 が Beginner（CEFR 該当なし～A1 上位に対応）、4～6 が Intermediate（A2～B1 に対応）、7 と 8 が Advanced（B1 上位～B2 に対応）、9 と 10 が Proficient（B 2 上位～C1、C2 に対応）とされている。これらの CEFR のレベルを TOEFL iBT および IELTS スピーキングのスコアに換算すると、TOEFL 教材が 30 点満点中 16 点、IELTS 教材が 9 点満点中 5.5 点を学習目標に据えていることがわかる。文部科学省（2003）は「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画」の中で、すべての英語教員が「英検準一級、TOEFL［PBT］550 点、TOEIC［L & R］730 点程度以上」の英語力をもつことを目標としているが [26]、CEFR B2 上位に相当するこの目標値は DMM 英会話の学習目標と合致するものであるといえる。

DMM 英会話オリジナル教材である IELTS 対策教材を除いては、いずれも実際の試験問題と同形式の問題に取り組むという流れでレッスンが行われる。問題中に英語音声のリスニングが含まれる場合は、講師が読み上げるのではなく録音を受講者が自分でクリックして再生する。上述のとおり、TOEFL iBT と TOEIC のスピーキング教材は韓国の出版物を用いているため、模擬試験問題だけが実際の試験と同様に英語のみで受講者に提示される。TOEIC 教材の底本となった書籍では韓国語訳や韓国語による解説も掲載されているものの、DMM 英会話上の教材では日本語訳や日本語による解説、問題形式や出題傾向等についての解説は付与されておらず、解答後は講師から口頭でフィードバックが与えられる。このとき使用される言語は英語であるが、プラスネイティブプランの加入により日本語話者の講師から日本語で解説を得ることも可能である。

英検対策の教材にはスピーキングとリーディング、リスニングの 3 種類がある。リーディングやリスニング問題においても解答欄への記入ではなく口頭で回答することが想定されている点、そして完全に英語のみで出題される準 1 級の問題においてもごく一部に日本語が見られる点が実際の出題形式と異なるものの、おおむね各級の出題形式に即した内容となっている。解答後のフィードバックが講師から口頭で与えられる点も他試験の対策教材と同様である。ただし、英検対策の教材に取り組むためには「予約・講師選択」で講師を検索するさいに「英検®対応」という条件で講師を絞り込まなければいけない。これは、

日本英語検定協会（n.d.）が示すとおり、英検が「日本人の実用英語の習得および普及・向上」を使命に掲げ、主に日本人英語学習者を対象として実施されてきた試験であることから[27]、出題内容や形式に熟知した講師が限られるためであると考えられる。

一方、独自教材である IELTS 対策は「Warm-Up: Pronunciation Practice はじめに：発音の練習」や「Helpful Vocabulary 使える語句」といった発音や語彙に焦点を当てた音読および練習問題、「Speaking Test Part 1 Dialogue」と「Fill in the Blanks」など実際の試験で想定される対話のモデルを先に提示したうえで講師とロールプレイをしたり、内容理解を確認したりする練習問題があり、実際の出題形式に即した模擬テストは 1 レッスンの中で Part 1～3 のいずれかの 1 題に取り組むのみである。模擬テストに際しても、「Useful Language 使える表現」が提示され、講師のあとに続けて読むことで表現の定着を図る活動が盛り込まれている点が実際の試験と異なっている。このような練習問題の形式は「Daily News デイリーニュース」や「Discussion ディスカッション」など検定試験対策以外の DMM 英会話の独自教材との類似が見られる。IELTS 対策教材が想定するレベルの下限である CEFR A2（DMM 英会話におけるレベル 4）のような初級学習者には有益であると考えられるが、上限ないし学習目標として位置づけられている CEFR B2（レベル 8）の学習者には容易すぎるタスクも少なくない。

このようにスピーキングに特化し、講師との口頭でのコミュニケーションで解答やフィードバックが行われる各種英語検定試験対策教材は、これまで語学学校や英会話教室等での授業として提供されてきた内容であり、学習者の都合のよい日時に自宅あるいは学習者の都合のよい場所で取り組む教材としては比較的新しいものである。速川（1986）は教室環境での教授者による指導を前提として用いられる「教科書」と学習者の自学自習を想定した「参考書」を区別しているが[28]、高速インターネットの普及によりこの二つの区別が薄れ、参考書のように自分の自由な日時と場所でみずから学習内容を選択しつつも、教室環境のように講師との口頭でのコミュニケーションを通して即時的なフィードバックを得ることが可能になっているといえる。月山（1991）が指摘するとおり、かつては入学試験や語学試験を想定した英語参考書は「読解」に関するものが多数を占め、社会においても「書いたり、話したりすることは出来なくても読んで内容を理解することが出来れば、まあまあ『英語ができる』と評価される」のが通例であった[29]。今日においても、大手オンライン書店であるアマゾンの売れ筋ランキング（2023 年 10 月 11 日現在）で上位を占める英語参考書のうち、英単語やフレーズの暗記に特化したものが 10 位以内に 5 冊、TOEIC Listening & Reading や同じく読解と聴解で構成される大学共通テストの問題集や対策本が 4 冊挙がっており、英語参考書の多くがリーディングとリスニングという英語の受容スキルの習得に重点を置いていることがわかる。2007 年から実施されている TOEIC Speaking & Writing の国内受験者数が 2022 年度においても 38,500 人であり、同年度の Listening & Reading 受験者数の 1,971,000 人に比して約 50 分の 1 程度にとどまっている点も、国内社会においていまだに発信スキルよりも受容スキルが英語力の指標と見なされていることの証左であろう。発信スキルの習得に重点を置いた教材開発がいまだに限定的である中で、スピーキング技能の向上を図る教材としてオンライン英会話が期待できる。

第 1 筆者は 2022 年 11 月に DMM 英会話のスタンダードプランに加入し、教材として提供されている TOEFL iBT®スピーキングの全 40 レッスンを 2022 年 11 月 1 日から 2023 年 3 月 4 日までのあいだにレッスン 1～8 を 3 回ずつ、残りの 32 レッスンを 2 回ずつの合計 88 回受講した上で、2023 年 3 月 4 日に TOEFL iBT を受験した。これは第 1 筆者にとって 4 度目の受験であり、過去の受験歴および結果では 2008 年 3 月 2 日（Reading 26、Listening 29、Speaking 19、Writing 25、Total 99）、2008 年 5 月 10 日（Reading 30、Listening 29、Speaking 22、Writing 22、Total 103）、2009 年 11 月 14 日（Reading 29、Listening 28、Speaking 19、Writing 27、Total 103）と一貫してスピーキングが最も低い結果となっていた。第 1 筆者自身も性格の内向性などの要因から英語のスピーキングに強い苦手意識を感じている。2023 年 3 月 4 日の受験においても、Reading 30、

Listening 30、Speaking 23、Writing 26、Total 109 と依然としてスピーキングが最も低い結果となったものの、スピーキングおよび総合点に関してはこれまでの受験の中で最も高い点数が出た。2010 年 9 月から 2011 年 9 月、2012 年 9 月から 2016 年 6 月にかけてイギリスに留学していたことを踏まえればあまりにも向上の幅が小さいと見ることもできるが、少なくともスピーキング試験の出題形式に慣れ、苦手意識を軽減することにオンライン英会話での学習が役立ったと考えている。

本項の最後に、オンライン英会話を検定試験の対策として利用する上での課題を検討しておきたい。実際に TOEFL iBT のスピーキング問題に取り組んだ中で、Independent Task と Integrated Task の両方で時間が足りないという印象を受けた。DMM 英会話のレッスンでは 25 分間のレッスン時間を示すタイマーはあるものの、個々のスピーキング課題の制限時間は学習者自身が測るか、講師にタイムキーパー役を依頼するかのいずれかの方法しかない。第 1 筆者は講師に時間を測ってくれるよう頼むことが多かったが、講師によっては自然な発話の展開を重視するため、実際の試験のように厳密に時間を測って発話を中断することは少なかった。フリートークをはじめ自然な英語コミュニケーションを前提とするプラットフォームであるからこそ、発話時間を限定する検定試験との齟齬が生じる部分もあると考えられる。DMM 英会話は受講者がチャット形式で AI と対話を行う ChatGPT 搭載の新機能「AI ロールプレイ」の提供を 2023 年 9 月に無料会員を含めた一般向けに開始したが、コンピュータに向かって発話する TOEFL iBT のスピーキング・テスト対策こそ AI が活用されるべき分野であろう。今後音声入力の認識と評価の改善によってより実際の試験環境に近いスピーキング対策教材が開発されることに期待したい。

３－３　留学の代替手段としてのオンライン英会話

本項では、留学の代替手段として用いられるオンライン英会話、そのオンライン英会話を集中的に行うオンライン留学について考察する。留学とは、一般的に外国（広義では国内の離れた場所）に留まり学ぶことを意味する。ユビキタスな「オンライン（学習）」と特定の場所に留まり学ぶ「留学」が、複合語の「オンライン留学」となっている。この背景には、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）があり、2019 年 12 月に第 1 例目の感染者が中国で報告され、その数ヵ月には日本はコロナ禍と呼ばれる状態になった。コロナ禍にあった 2020 年度から 2022 年度は、海外渡航をともなう留学を断念する大学が多くあった。本項では、オンライン留学のメリットとデメリットについて、コロナ禍にオンライン留学を取り入れた大学の事例から考察する。そして、現地対面型の留学と比較し、オンライン留学の効果について検討し、オンライン留学を利用するためにふさわしい学習段階を提示する。なお、本項の「留学」は、オンライン英会話を代替手段とする「オンライン留学」もあわせて論じるため、「研修」と「留学」の用語の使い分けは行わない。

オンライン留学のメリットについては、文部科学省（2021）が 2021 年 3 月にウェブ上で実施したアンケート「トビタテ！留学 JAPAN 海外留学に関する意識調査」（対象：大学生：n=412）によると、投票数が多い順に「費用が抑えられる」（63%）、「日本での学業や仕事を継続しながら学べる」（51%）、「日本での食事や生活環境を維持したまま学べる」（33%）、「複数国のプログラムを同時並行できる」（11%）、「期待やメリットは特にない」（24%）という結果であった [30]。この結果から、オンライン留学は、金銭的な理由から対面型の留学への参加をためらっている者や、留学先での暮らしに不安を感じている者にとっては、メリットと捉えられていることがわかる。オンライン留学のデメリットの回答（n=412）は、「海外の異文化、価値観を体験する機会がすくない」（55%）、「時差による不便さ」（51%）、「友達を作りにくい」（48%）、「質問など先生とのコミュニケーションがしにくい」（45%）、「外国語の習熟度が低くなりそう」（38%）、「進学就職時などに留学経験としての評価が低そう」（24%）、「その他」（1%）、「懸念やメリットは特にない」（13%）という回答であった。これらのデメリットについて、文部科学省（2021）はアンケート内で「勉学だけでなく、異文化体験を通

じた学びを求めている方が多い」と分析している。そして、実際にオンライン留学に参加するかどうかの判断基準で最も回答率が高かったのは「費用（学費）がどのくらいかかるか」（60%）であり、続いて、「授業時間以外で学生と交流する機会があるか」（36%）など、対面型の留学で得られる交流を求める声があった。

ここで、オンライン留学の実際について確認をしておきたい。横川（2021）は、フィリピン・マニラの大学での英語発話力向上プログラムのオンライン化の経緯と現状報告を行った[31]。2020年度のオンライン化による主な変更点として、コロナ禍前まで行っていた、1日マンツーマン4時間、グループ4時間の計8時間で現地派遣していたプログラムを、1日マンツーマン3時間、グループ2時間の計5時間のオンライン実施に変更した。フィールドワークや授業見学は実施不可となったが、現地授業の録画視聴や文化交流は現地学生とマンツーマンで実施可能であった。このケースでは、現地で行っていたプログラムを概ねオンライン実施に置き換えた形といえる。さらに、菊池（2021）は 2020 年秋学期に開始した明治大学のオンラインによる交換留学について報告している[32]。明治大学では、協定校から 12 名の学生を受け入れ、10 名の学生を協定校に派遣するオンラインでの交換留学を行った。短期オンライン留学の受講者数は増加傾向にあり、学生の満足度は前年度の海外渡航を伴うプログラムとほぼ同じであった。満足度については、海外渡航をともなう留学とオンライン留学の両方を経験した学生による比較調査が望まれるところである。なお、明治大学では、2021 年度秋学期よりリスク管理を強化して、現地での交換留学を再開している。

対面型の留学のメリットとしては、英語に触れる機会が多い点がしばしば挙げられる。竹野ほか（2016）[33]や竹野・佐生・大橋・松浦（2018）[34]によると、フィリピン・セブ島の語学学校での短期留学にそれぞれ大学生 19 名と 20 名が参加しており、第 2 筆者が引率をしている。各回で語学学校は異なっており、それぞれの語学学校については ESL (English as a Second Language) の時間割サンプルから時間割や授業の内容を知ることができるが、1 日 8 時間程度は英語の学習の時間になっている。中川（2015）は、フィリピン留学のメリットは、「充実したマンツーマン授業」、「学習に集中できる環境」、「圧倒的なコストパフォーマンス」などであるとしている[35]。講師の質については、「多くは成績優秀なエリートで、かつ育ちも確かな人が多い」、「英語を教える能力を持つ人たちのなかでも選りすぐられた人々」、「親切丁寧に教えてくれる」と評している。オンライン英会話のレッスンとフィリピン留学でのマンツーマン授業の違いは、極論すれば、オンラインで行われているか対面で行われているかの違いである。実際、第 2 筆者が DMM 英会話のレッスンでフリートークをしていた際に、「以前語学学校で勤めていたことがある」というフィリピン人講師がいた。しかし、オンライン英会話とフィリピンの語学留学を比較したとき、現地での留学の大きな利点は、やはり英語に触れる時間が絶対的に長いということである。先に紹介した「トビタテ！」のアンケートで「授業時間以外で学生と交流する機会があるか」という項目がオンライン留学を決める際のポイントであったように、現地参加型の留学では、英会話の授業以外での参加者同士の交流が望める。フィリピンの語学学校ではマンツーマン授業のみを提供しているわけではないが、4 人程度のグループ授業、クラスサイズの集団授業や語学学校によっては、義務自習の時間を設けるなどして、とにかく英語の学習時間を確保する手立てが徹底している。日本でオンライン英会話を用いて学習する際には、オンライン英会話のレッスンに加えて十分な学習時間を確保することが必要になる。それを実行に移すことができれば、留学にかなり近い学習効果が期待できるだろう。

留学と日本での英語学習の効果の相違点がわかる先行研究を一つ紹介する。Taguchi（2008）は、海外の大学の英語集中プログラムを受ける「留学（ESL）グループ」と日本の大学で英語集中プログラムを受ける「国内英語集中プログラム（EFL）グループ」を比較し、ほぼ同じ時間（120-130 時間）英語を勉強したあとの両者の効果の違いを示している[36]。その結果、留学経験の有無にかかわらず、両グループとも含意の理解において正答

率と回答時間に有意な伸びが見られた。加えて、留学グループは速さや流暢さにおいて顕著な伸びが見られるのに対して、国内グループは正確さがより大きく伸びるという結果が得られた。正確さという面から見た英語力であれば留学をしなくとも問題ないが、流暢さに関しては、留学の方が適した学習環境であるといえる。

また、佐々木（2022）は、海外で行う留学による英語学習について、SLA (Second Language Acquisition) 研究の成果を基に Q&A 方式で示唆を与えている[37]。その質問の中に、「どのくらいの期間留学すれば大きな効果が出るか？」という問いがあり、Hirai（2018）の、1 年間の留学は 6 ヵ月の 2 倍、1 ヵ月以内の 4 倍の効果があったという報告[38]を一例として紹介しながら、「習得したい技能によるが、平均的な日本人英語学習者が留学する場合、短期より 1 年程度が効果が高い」と回答している。

以上、本項では、留学について、英語（力）という観点から考察を加えたが、留学の醍醐味はその土地での生活ではないだろうか。実際に旅をするのとバーチャルな旅をするのではやはり実感のともない方がまったく異なる。岩城・巽（2021）は「オンライン授業を留学とは全く別のものとして捉えている学生が大半」であったという調査結果を得ている[39]。それでも、渡部・新見（2022）は、オンライン留学のメリットが費用にあるとし、その費用の安さから学生は留学に参加しやすくなり、それによって「オンライン留学への動機を生み、国際的な学習に対する意欲の向上への効果が現地研修型短期留学以上に期待できる」と、述べている[40]。費用の安さだけではなく、オンライン上で手軽に参加できるという点も評価されており、清藤・橋本（2021）も「手軽さや時間的・経済的な負担軽減がサイバー空間の国際交流の極めて大きなメリット」と指摘しつつ、「オンライン学習に限界があるのであれば、リアル空間を混ぜたハイブリッドな国際交流モデル構築」の必要性も提唱している[41]。この論文を執筆している 2023 年 10 月時点では 1 ドル 150 円の為替相場となっており、長期間の留学に金銭的な理由から参加をためらう者も出てくることが想定できるが、この意識調査については今後の研究課題としたい。

３－４　ICT を用いた異文化理解

最後に、ICT を用いた直接の対人接触がない交流も、異文化理解の促進に寄与するのか、するとすればどのような点においてであるかについて論じる。ICT を用いた交流によって異文化理解にまつわる成果が得られたとの報告は数多くある。篠原・竹内・中村（2023）は、大学生が専門分野のプレゼンテーションやディスカッションを通したオンライン交流で、交流相手国の文化や習慣の異同を知り自文化への気づきを高めることができたと報告している[42]。飯野 (2022) は、DMM 英会話を受講した大学生に対して 9 か月後に質問紙調査を実施し自己評価を行わせたところ、「自分の国の文化や習慣を英語で明確に説明できる」ことにおいて有意な変化が見られたことを報告している[43]。宮腰（2022）も DMM 英会話を受講した大学生が「言葉が出てこないときには、ジェスチャーで伝えることの重要性に気づくことができた」と報告しており、これを異文化理解の高まりであると評価している[44]。また、受講者の多くが「伝えようとする気持ち」がコミュニケーションには大切であると考えるに至っており、講師の出身国が、フィリピン、ジャマイカ、セルビアといった先進国以外の英語話者であったことで世界に対する視野が広がっていたと報告している。その上で、集団で海外へと赴いて行う対面交流が、実際は英語をほとんど口にすることなく帰国することもあったという過去の実績を振り返り、オンライン英会話では言葉によるコミュニケーションが必須であるがゆえに、言語コミュニケーションの難しさや楽しさに気づくことができる利点があったと考察している。

全体として、ICT を用いた異文化間の交流に関する実践報告の多くは、オンライン交流が刺激となって参加者が言語や専門科目の学習意欲を高めたり、経験された楽しさが更なる異文化接触を志向したりするといった、姿勢や情意面の変化に関連する報告が多く見られる[45)-47]。

ジェスチャー等の非言語コミュニケーションの役割への気づきや、様々な国の人と言葉

を交わすことを通して英語コミュニケーションの意欲を高め、背後にある文化の存在へと視野を拡げていくという教育効果は、対面によって実施された短期の海外語学研修においても見られる[48)-50)]。すなわち、比較的初期の異文化接触の成果は、対面であってもオンラインであっても共通していると考えられる。ホームステイなど対面の異文化交流に、コストが多くかかるという点だけでなくカルチャーショックのリスクもあることを鑑みると、一定の時間を過ぎればオフラインで現実の日常生活に戻ることができるオンライン・コミュニケーションは、リスクの少ない良質な異文化接触体験であると考えることもできるだろう。

では、オンラインでの言語コミュニケーションを、対面の異文化接触で起こりうるものよりも深い異文化理解へと発展させていくことは可能であろうか。これについては、外国語コミュニケーションにおける異文化理解のゴール地点をどのように設定するかに関わるだろう。言語教育の中で異文化理解の促進を最重要事項と位置付けているのは欧州である。CEFR の制定を担った欧州評議会（Council of Europe, 2023）は、複数言語への尊重は社会が民主的に機能することと必要不可欠な関係にあるとした上で、異文化理解と言語とは切り離すことができない関係にあるという立場に立つ。そして言語と文化を融合させた言語教育が想定されている[51)]。言語を習得することは、開かれた個人的・集団的文化的アイデンティティの形成に役立ち、多言語教育・異文化理解教育の推進は、社会に包摂と結束をもたらし、民主的な市民を育成することに貢献するのだという[52)]。欧州評議会の言語政策で中心的役割を担ってきた Byram（2008）は、言語の学びを通して獲得されうる異文化理解の内容について、「自文化や異文化に対する批判的気づき」、「異文化に対するオープンさと判断留保」、「文化にまつわる知識」、「文化の解釈力と関連付けの力」、「知識・態度・スキルを駆使した交流力」であると具体的に示している[53)]。

欧州と比べると、言語コミュニケーションを通した異文化理解について、日本人の捉え方はしばしば異なる傾向にあるのかもしれない。日本人は一般的に、英語が話せなくても「気持ちや意欲が大切」であると考え、「ジェスチャーを用いることで克服できる程度の言語力」や「世界の国や文化に触れる」ことで満足感を得やすい。これについては、日本はコミュニケーションにおいて言葉への依存度が低い「高コンテキスト文化」圏にあると分類されており[54)]、ゆえに言葉を多く交わすことがなくとも、同じ時間や場を共有したり、互いに協力して作業を行ったりすることでも、コミュニケーションが取れたと認知する傾向にあることと関係があるのかもしれない。

欧州やその他の多民族社会では、他者との接触は親密になるほど、誤解や違和感も生まれうるという想定が行われやすく、そこでの異文化理解とは、認知機能を最大限に活かしながら、言葉を尽くして互いの妥協点を探りつつ、他者との共生・共存を模索していく営みであると考えられている。

日本人にとって、言葉を尽くして伝えることは最大の課題であるが、DMM 英会話などのオンライン交流は適切なトレーニングとなりうるだろう。スクリーンを隔てた交流は、場の共有はできても、言葉を交わすことなく時間をただ共有するということが難しい。ゆえに日本人の「脱・高コンテキスト」というコミュニケーション課題に一石を投じる可能性がある。特に、英語力自体が高度になっていき、シンプルな情報交換だけでなくより抽象的な考えや意見を交換することができる段階に来れば、「異なる他者と対話をするスキルの獲得」という欧州が想定しているような異文化理解や市民感覚の育成も可能となってくるであろう。

４．おわりに

本稿では、オンライン英会話に関する有効性を様々な観点から論じた。主には、DMM 英会話のレッスン受講から見える世界諸英語の実情について、オンライン英会話の検定対策における活用可能性、留学の代替手段としてのオンライン英会話、ICT を用いた異文化理解などについて考察を加えたが、レッスン受講の体験や先行研究から得られる示唆、筆

者間での議論も相まって、当初考えていたよりも分量、内容ともに充実したものになったと考える。

日本のような EFL 環境下では、日常生活において英語を話す機会には恵まれない。そのような環境において、オンライン英会話は英語学習者にとって、直接の対面ではないものの対人相手に英会話を学べる選択肢として非常に有効な手段であると結論付けられる。ただし、オンライン英会話に抵抗を感じる学習者が一定数いることも事実である。今回焦点を当てた DMM 英会話は、オンライン英会話に対して学習者が感じる抵抗を減じるための解決策として、2017 年 5 月に日本語・英語での対応ができる日本人講師を導入したいきさつがあり、さらに、3 章 2 節で述べたように、2023 年 9 月には無料会員を含めた一般向けに、受講者がチャット形式で AI と対話を行う ChatGPT 搭載の新機能「AI ロールプレイ」の提供を開始している。今後は、人間相手に直接対面する「リアルな英会話」か「オンライン英会話」かの議論ではなく、「リアルな講師（人間）」か「AI 講師（AI）」かについて論じる段階に入ったのであろう。

英語という言語は長い年月をかけて少しずつ変化しているが、英語を学ぶ環境は、オンライン学習の拡充、AI 翻訳や ChatGPT などの AI 技術の革新など、比較的短い期間で目まぐるしく変化している。英語を指導する立場の人間として、時代や環境の変化とともにアップデートを怠らず、その知見を学生に還元していきたい。

参考文献

1) 安河内哲也：英語が話せるようになりたければ、今すぐオンライン英会話をやりなさい！ NHK 出版 (2021)
2) 奥田百子：初心者必見! 1 日 25 分のオンライン英会話で英語ペラペラ, セルバ出版 (2020)
3) 江口真理子：オンライン英会話はスピーキング能力と相関するか, 総合政策論叢, 島根県立大学総合政策学会, 38 号, pp. 41-51 (2019)
4) 永田雅啓：マンツーマン型オンライン英会話学習が TOEIC スコアに与える効果の定量的分析, 麗澤経済研究, 29 巻, pp. 12-23 (2022)
5) 嬉野克也：36 歳からオンライン英会話をはじめたら英語で仕事ができるようになりました, KADOKAWA (2016)
6) 塩澤正・吉川寛・倉橋洋子・小宮富子・下内充：「国際英語論」で変わる日本の英語教育, くろしお出版 (2016)
7) 柴田美紀・仲潔・藤原康弘：英語教育のための国際英語論 英語の多様性と国際共通語の視点から, 大修館書店 (2020)
8) 田中春美・田中幸子：World Englishes 世界の英語への招待, 昭和堂 (2012)
9) 本名信行・竹下裕子：世界の英語・私の英語 多文化共生社会をめざして, 桐原書店 (2018)
10) 榎木薗鉄也：インド英語のツボ―必ず聞き取れる 5 つのコツ―, アルク (2016)
11) 柴田真一：アジアの英語, コスモピア (2016)
12) 小張順弘：フィリピン英語と日本の英語教育, アジア英語研究, 23 巻, pp. 4-28 (2021)
13) Putlack, M. A.・Poirier, S.・Covello, T.・다락원 토익 연구소：토익스피킹 10 회 모의고사만으로 IH 넘기, 다락원 (2022)
14) Putlack, M. A.・Poirier, S.・Covello, T. : Decoding the TOEFL® iBT actual test: Speaking, New TOEFL ed., 2 vol., Darakwon (2020)
15) 旺文社 (編)：7 日間完成 英検準 1 級 予想問題ドリル, 5 訂版, 旺文社 (2019)
16) 旺文社 (編)：7 日間完成 英検 2 級 予想問題ドリル, 5 訂版, 旺文社 (2019)
17) 旺文社 (編)：7 日間完成 英検準 2 級 予想問題ドリル, 5 訂版, 旺文社 (2019)
18) 旺文社 (編)：7 日間完成 英検 3 級 予想問題ドリル, 5 訂版, 旺文社 (2019)
19) 旺文社 (編)：7 日間完成 英検 4 級 予想問題ドリル, 5 訂版, 旺文社 (2019)
20) 旺文社 (編)：7 日間完成 英検 5 級 予想問題ドリル, 5 訂版, 旺文社 (2019)
21) 旺文社 (編)：14 日でできる！ 英検準 1 級 二次試験・面接 完全予想問題, 改訂版, 旺文社 (2021)
22) 旺文社 (編)：14 日でできる！ 英検 2 級 二次試験・面接 完全予想問題, 改訂版, 旺文社 (2021)
23) 旺文社 (編)：14 日でできる！ 英検準 2 級 二次試験・面接 完全予想問題, 改訂版, 旺文社 (2021)
24) 旺文社 (編)：14 日でできる！ 英検 3 級 二次試験・面接 完全予想問題, 改訂版, 旺文社 (2021)
25) Schmidgall, J. : Best practices for comparing TOEIC® speaking test scores to other assessments and standards: A score user's guide. Educational Testing Service, retrieved from https://www.ets.org/Media/Research/pdf/RM-18-05.pdf (April 2018)
26) 文部科学省：「英語が使える日本人」の育成のための行動計画, 文部科学省, retrieved from https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryo/04031601/005.pdf (2003 年 3 月 31 日)
27) 日本英語検定協会：各種目的に応じて求められる 英検®の品質についての考え方、ならびにその活用に関するガイドライン, 英検, retrieved from https://www.eiken.or.jp/eiken/result/itemguideline.html (2023 年 10 月 17 日参照)
28) 速川和男：英語学習参考書の研究―方法論と英文法参考書の系譜―, 日本英語教育史研究, 1 号, pp. 57-81 (1986)
29) 月山秀夫：英語参考書の有効性, 中京女子大学紀要, 25 号, pp. 125-129 (1991)
30) 文部科学省：トビタテ！留学 JAPAN 海外留学に関する意識調査概要, retrieved from https://tobitate.mext.go.jp/labo (2023 年 10 月 15 日参照)

31) 横川綾子：「英語発話力向上プログラム（フィリピン）」オンライン化の経緯と現状報告, グローバル人材育成教育研究, 9 巻, 2 号, pp. 22-29 (2021)
32) 菊地端夫：明治大学におけるコロナ禍での長期・短期オンライン“留学”への対応と派遣再開への取り組み, グローバル人材育成教育研究, 9 巻, 2 号, pp. 3-9 (2021)
33) 竹野純一郎・福田衣里・梅原嘉介・佐生武彦・小野山和男・大橋典晶ほか：フィリピンの英語教育 (1) －セブ島での語学短期留学を通して－, 中国学園大学紀要, 15 号, pp. 131-140 (2016)
34) 竹野純一郎・佐生武彦・大橋典晶・松浦加寿子：フィリピンの英語教育 (3) －セブ島での語学短期留学を通して－, 中国学園大学紀要, 17 号, pp. 191-201 (2018)
35) 中川友康：英語はアジアで学ぶ時代がきた! フィリピン留学 [決定版], 宝島社 (2015)
36) Taguchi, N. : The role of learning environment in the development of pragmatic comprehension: A comparison of gains between EFL and ESL learners, Studies in Second Language Acquisition, 30, 423-452 (2008)
37) 佐々木みゆき：留学による英語学習, 中田達也・鈴木祐一（編）英語学習の科学, 研究社, pp. 203-218 (2022)
38) Hirai, A. : The effects of study abroad duration and predeparture proficiency on the L2 proficiency of Japanese university students: A meta-analysis approach, JLTA Journal, 21, pp. 102-123 (2018)
39) 岩城奈巳・巽洋子：COVID-19 による学生の留学に対する意識変化—大学生への調査を通して—, 名古屋高等教育研究, 21 号, pp. 187-206 (2022)
40) 渡部由紀・新見有紀子：ポストコロナ期におけるオンライン留学の役割と可能性—オンライン型短期留学プログラムの学習成果を踏まえた一考察—, 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要, 8 巻, pp. 23-36 (2022)
41) 清藤隆春・橋本智：BEVI を用いたオンライン留学の効果測定：コロナ禍でのグローバル人材育成の試み, 高等教育研究センター学修支援部門国際教育推進班紀要・年報 2020, pp. 12-21 (2021)
42) 篠原枝里子・竹内翔子・中村幸代：オンライン海外フィールドワークの取り組みと学生評価, 横浜看護学雑誌, 16 巻, pp. 14-21 (2023)
43) 飯野厚：オンライン英会話を取り入れた発信型指導が英語スピーキング力と異文化理解に及ぼす効果, 経済志林, 法政大学経済学部学会, 89 巻, 4 号, pp. 161-182 (2022)
44) 宮腰宏美：保育・教育系大学におけるオンライン英会話練習の可能性—コロナ禍の中で、DMM 英会話を使ったオンライン英会話練習がオンライン留学またはオンライン異文化体験の学びの代替となることは可能か, 岡崎女子大学・岡崎女子短期大学研究紀要, 55 号, pp. 127-132 (2022)
45) 畠山均：オンライン英語学習プログラムの成果と課題, 純心人文研究, 23 号, pp. 227-241 (2017)
46) 松本慎平・中島亨輔・Noor, A. M.：オンラインコミュニケーションツールを用いた英語によるプログラミングハッカソンの実践—広島工業大学とペトロナス工科大学との国際交流, コンピュータ＆エデュケーション, 51 巻, pp. 75-80 (2021)
47) Yamoto, K.・Ruiz, F. J. A. O.：Achievements and challenges on the participation of Japanese students in remote classes of universities abroad, 外国語教育のフロンティア, 大阪大学大学院人文学研究科, 6 巻, pp. 159-174 (2023)
48) 小嶋英夫：ウォーリック大学応用言語学センター短期研修プログラムに関する英語指導者志望生の自己省察, 教育学部紀要, 53 集, pp. 185-194 (2020)
49) 越山康子・伊藤創・飯島有美子・広沢俊宗：活動型短期海外派遣プログラムの「外国語学習観」への影響（I）—事前事後における項目レベルでの比較検討—, 関西国際大学研究紀要, 21 号, pp. 21-30 (2020)
50) 徳井厚子：短期語学研修におけるコミュニケーション意識とイメージの変化—ユタ大学夏期英語研修プログラムの事例, 信州大学教育学部紀要, 107 号, pp. 25-33 (2002)
51) Council of Europe : Council of Europe language policy portal, retrieved from https://coe.int/en/web/language-policy (October 10, 2023)
52) Council Europe : Guide for the development and implementation of curricula for plurilingual and intercultural education, Council of Europe Publishing, retrieved from https://rm.coe.int/16806ae621 (2016)
53) Byram, M. : From foreign language education to education for intercultural citizenship: Essays and reflections, Multilingual Matters (2008)
54) Halll, E. T. : Beyond culture, Anchor Books (1976)